

★神戸っ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★アジアの十字路

シンガポール

洪川

撮也

（ダイナース・ワールドト
ラベル日本地区支配人）

大きな交叉点に立つてみると、大きな車、小さな車、白い車、赤い車、いろんな種類の乗物が往来する様に、まさにシンガポールは種々の民族がそれぞれに独自の伝統文化を持続しながらシンガポール独自の文化を創造している国である。従つてその「食べる」という食文化はその国を訪れる人々にとって、まさにつきぬ喜びを与えてくれる。せっかくその国を訪れた人は、その独特的の楽しみを味わなければ大いに損することになる。

まず、トロピカル・フルーツの豊富なこと、まさに果物天国。一年中露店や市場に山と積まれたカラフルなエキゾチックな果物は、是非みなさんお試し願いたい。ババ・イア、濃いオレンジ色のラグビーボールのような



空港到着ホール前

ホーカーと呼ばれる屋台を集めた野外のフードセンターや、その他いろんなアジアの料理や西洋料理の高級レストランから安くてうまい気軽な食堂まで各種各様の飲食店が揃っています。またシンガポール料理を何種類か揃えた冷房のない小さな食堂も旅の思い出に一見の価値があります。

なんといっても一番普及していて美味しいのは中国料

果物。黒い種子をとり、レモン汁をかけて食べると、なんと美味しい。あシンガポールに来たなあと実感する。マンゴーの外側は、黄色か緑色だが果実はオレンジ色で、まん中に大きな種が一つある。果肉はやわらかくてたいへん甘い。珍しいのがスター・フルーツ、黄色か緑色の果物で、スライスすると星の形になる。水分が多く、あまり甘味がないのでどが渴いた時においしい。その他「ブア・ドウク」「ランブタ」「ドリアン」「マングステイン」「ジャックフルーツ」「チャンパードック」「ジャンプ・バトウ」等々、あげればきりがない。これらのものは、至つて手軽に露店等で一つでもまた物によつては、一切れでも買えるから、いろんなものを試してみるのも、旅の楽しい思い出になるでしょう。

理。中国料理の代名詞に使われる程美味で知られる広東料理のみならずシンガポール人が大好きな福建麺はじめとする福建料理、ガチヨウの蒸し煮やバーロールの潮州料理。そしてベキン・ダックで有名な味付けはおとなしいが手のこんだ北京料理。

海南島の料理や台湾料理、上海料理（うなぎの蒸し煮や上海麺は、ぜひ味ってみたいもののひとつ）。等等。

朝からの市内観光の後の空腹に手軽でいくらでも食べられるのが飲茶料理。種類は豊富で小さなセイロに入つたものから、何日も時間をかけて、じっくりと煮込んだ栄養価の高いスープまで心ゆくまで自分の好みで満腹になるまで楽しめるでしょう。

シンガポールを訪れる人々の最も印象に残るのは、フードセンターでの食事でしょう。ニュートン・サーカスの広々とした野外センターから、小規模ながら味は最高の「ラサ・シンガブーラ」まで、フードセンターの種類もさまざま。100年近く前に建てられた美しい八角形のテロ・アエア・マーケットも、今ではフードセンターとして大好評です。

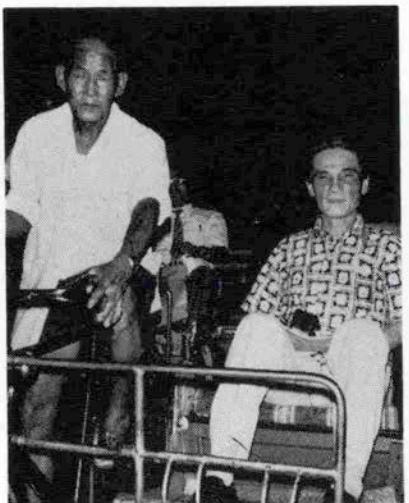
どのフードセンターにも共通する特徴は、味がいいことと安いこと。一人\$5~\$10もあれば、数皿のご馳走を楽しんだ上に、フルーツのデザートまで味わえるでしょう。屋台料理で特に人気があるのは、エビや豚、モヤシ入りの福建麺、海南風のチキンライス、魚ダンゴ入りスープ、ココナツ・ミルクをかけた香り高い麺とシーフードの料理「ラクサ」などです。フード・センターで

は、好きな屋台から好きな料理をとれるので驚く様な安い値段で、さまざまな料理が楽しめるわけです。麺の匂いや、炭火の上で焼けるサテーの香ばしい匂いをかぎ、おそろしいようなスピードでカキ入りオムレツを焼き上げる料理人の手さばきとその活気に満ちたフニイキとは一種独特的のコウフンをかきたてること間違いなしでしょう。

最後におすすめしたいのは、新鮮な魚貝類を独特の調理法で大胆に調理した海鮮料理です。空港から市内に通じる東海岸のハイウェイの畔りに軒を並べて大規模なレストランがありますが、あの南国の星を眺めながら、次々に出てくるエビやカニと格闘している人達、グルーブで乾杯の気勢をあげている地元の若い人達、熱い直火で大きなエビを焼き上げている煙りと炎、どれをとっても、あのシンガポールの国の驚異的発展のエネルギーの源は、この辺りにあるのかなあと感じます。これこそ是非一度お試しなってほしいと思います。いずれにしてみても、あのシンガポールの国の驚異的発展のエネルギーの源は、この辺りにあるのかなあと感じます。これこそ是非一度お試ね下さい。



タイガーバームガーデン前にて



名物“トライショ”乗

★神戸つ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ海外旅行を

★ブルーグラスカントリー

金井 譲治

(△帝真貿易株式会社常務取締役)

普通皆さんに「アメリカ」と聞いて思い浮かべるのは、摩天楼がそそり建つニューヨークやハイウエーが交錯するロサンゼルス、そして青空の下輝くゴールデンゲートブリッジ

あるサンフランシスコでしょう。しかし、私が今から紹介するのは、南部のケンタッキー州にあるレキシントンという町です。

この町の人口は約三〇万人で、ここから北一〇〇kmには、オハイオ州シンシナティが、南約一〇〇kmには、テネシー州ナッシュビルがあります。この町の周辺には世界一優秀なサラブレッドを飼育する牧場がたくさんあり、ダービーで優勝した馬は五〇頭を数えます。入札のシーズンになるとサウジアラビアや中近東、ヨーロッパ、アジア等の各国からたくさんの人々がこの町を訪れます。そのため、ロールスロイスやキャデラックといった高級車の保有台数は人口比にすると全米一だということです。

アメリカ人たちはこの町を「ブルー・グラス・カントリー(Blue Grass Country)」と親しみを込めて呼ん



日本でもお馴染みフライドチキンは、ケンタッキーがふるさと

南部のフライドチキンは、北部のものに比べると、香辛料をふんだんに使い、クリスピード好いしいのです。これと南部の代表的なコーンブレットにはちみつをたっぷりぬって

ています。緑色というよりもむしろ青色をした広大な牧場を馬が駆け回る様子は、狭い日本に住む私達にはうらやましい限りです。

町の郊外では、日本でも有名なマールボロやウインストンといったたばこの葉っぱの栽培を行っています。また、日本の企業も進出し始め、トヨタの組立工場ができるために、現在では約千人の日本人が住んでいるそうです。

次にこの町のおすすめ料理というと何といっても、あの白いヒゲと人なつっこい目で日本でもすっかりお馴染

みのカーネルサンダース氏の出身州

だけあって、フライドチキンです。南部のフライドチキンは、北部のものに比べると、香辛料をふんだんに使い、クリスピード好いしいのです。これと南部の代表的なコーンブレットにはちみつをたっぷりぬって

食べるのが私のお気に入りです。

チキン以外にこの町には最上のビーフ・ステーキを食べさせる店がたくさんあります。その中でも特に、「コロンビアステーキハウス」は有名で週日・週末を問わず夕方になると長い列ができ、予約なしでは入れません。この店のオリジナルバターとガーリックをのせてオーブンで焼く五〇〇gのビーフステーキをどの客もペロリと平らげてしまいます。

ここではこれに、丸ままのポテトを四つに切った大きさのフライドポテトを添えて出してくれます。これらを凍るぐらい冷くひやしたビールで流し込むと気分はすっかりアメリカンです。それと私がぜひ、おすすめしたい



縁が広がる “ブルーグラスカントリー”

のは、羊の精巣に香辛料とパン粉をつけて揚げる「ロッキー・マウンテン・オイスター」で、何ともいえず美味です。これを食べに全米各地から人々がやって来るといつても過言ではありません。

その他、南部の人たちの好物のキヤツト・フィッシュ（なます）の料理で、とうもろこしの粉をまぶし、ディープ・フライにして、秘伝のタルタルソースをつけて食べさせる「キヤツト・フィッシュ・ジョーンズ」という店にも立ち寄ってもらいたいと思います。

お腹がいっぱいになつたら、次にゆっくり音楽でも聴いてくつろぐというのはいかがでしょう。ダウンタウンの中心部に、古い建物を修復したオペラハウスがあります。

シーズン中には週二回、ここでオペラの公演が行われ、ゲストとして欧米のオペラスターたちがやって来て、人々の耳を楽しませてくれます。ここではまた、レキシントン・フィルハーモニー・オーケストラがコンサートを開きます。名前はあまり有名ではありませんが、優秀な音楽大学を卒業した音楽家たちが、六七月には屋外コンサートを開きます。

娯楽施設として他に、レキシントンの南に馬の博物館があります。ここでは、あの有名なケンタッキー・ダービーの様子を大きなスクリーンで映しています。そして、いろいろな馬具も売っているので、ショッピングも楽しめます。

レキシントンへ行く交通手段としては、アトランタ、ダラス、ヒューストン、そしてシカゴからノンストップ便が運航されています。また、シンシナティーからも車でわずか四十分です。

とにかく、一度この町を訪れて一味違つた、アメリカを満喫されてはいかがでしょうか。

★神戸つ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★香港の人間、入門指南！

白杵 百合子（フリージャーナリスト）

香港好き人間と嫌い人間とは、両極端の反応を表わすようだ。嫌いとなると一分、一秒も早く逃げだしたくなるゴミ箱香港。ところが好きとなると、しようとゆう行きたくなるし、住みつきたくもなる東洋の真珠香港といった具合で、マアマアとかボチボチといった言葉は、この国には似合わないらしい。

香港大好き人間としては、まずイメージレーションの表情一つ変えず、眼鏡の奥からジロリと一べつする入国係官を見ただけで、緊張感と共に、なんともいえぬ自由な思ひが、全身を駆け巡ってくる。

迎合しない香港は、自分の足と運をたよりに旅をするに限る。

どこの国へ旅してもいえることだが、本当に楽しむには異和感なく溶けこむこと。要は、その国的人間になればいいわけ。では、香港的人間になるには……。

ポイント(1) 服装について。ジーパンにTシャツといったラフなスタイルで。ブランド物で身を固めたい御仁は、スリさんのマークに覺悟を。

ポイント(2) 歩き方と表情について。背筋を伸ばして、かかとから踏み出し外また風に足早に歩く。表情は無表情に意味もなく笑みを浮かべぬよう。ついでながら、眼

鏡はインテリの勲章（栄えある香港大学生の約八割がかけている）。

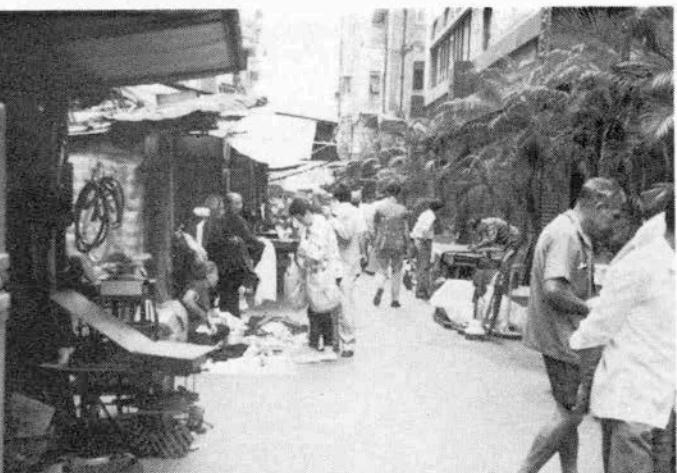
ポイント(3) バッグの持ち方について。常に体に触れている状態にしておく。

ポイント(4) 移動は、バスや地下鉄で。バスはワンマンで前乗り後降りで、入口の正面の料金ボックスに所定の料金が大きな赤い字で表示してある。泊っているホテル近くのバス停から終点まで行って、また、もどってくるなどすれば街の雰囲気、人々の有様も身近に感じられ土地勘の訓練によい。地下鉄は五〇HKD（約千円）のチケットを買っておくと便利。そして、自分の足で歩くこと。それにはあらかじめ地図を頭のなかに入れておき、目印になる建物なり看板などを、自分なりにみつけてお



キャットストリート（アンティークの店がたくさん並ぶ）の周さんの店の前で。周さんは私の香港指南の大先生（左筆者）。

くと迷うことは殆どない（よほどの方向オンチは別）。思わぬ小路で、香港人の生活に直に出逢えること請け合ハ。



なんでも揃うになる香港。おばあさんは、輪ゴムと古着を売っている（ガラクタ市で）。

ボイント(5) 食生活について。グルメ天国、香港では大酒店から大牌檔まで、不味いというものは、あまり言葉が出来ずとも、そこは同じ漢字民族、メニューを見て大体の見当をつけて注文するか、店によつて看板料理があるので、周りを見渡して堂々と指し示す。

近頃では、カフェテリア形式も増えてゐるし、店を搜すのも指し示すにも疲れたら、マクドナルドかセブンイン、レブンへどうぞ。

ポイント(6) 言葉について。香港では広東語だが、日本人が話せるまでには、かなりの年季を要するようで、広東語しか話せない人に、漢字の筆談とゼスチャーで。

ポイント(9) 安全性について。犯罪は、人間がいる以上、どこでも起きるもので、香港だけが特別ではない。旅行者としては、スリに気をつけホテルも、人の出入りをしつかりチェックしてくれるところを選ぶように。

ポイント(10) 新聞とテレビの活用について。世界の情報都市香港ならではのニュースを仕入れることもでき、香港の動きもよくわかる。

まあ以上が、香港的人間への入門といったところだろうか。

香港は、ぬるま湯につかっている日本人に刺激を与えてくれる国。中国返還まであと十年と、決められた時間のなかで決められた場所で、たくましく今日を生きる人々の姿に、国という重みを改めて考えさせてくれる。

基本は英語で、自分の意思を必ずわかつてもらうという姿勢でやれば、必ず通じる。

ポイント(7) 買物について。日本人観光客が多く出入りするブランド物の店は無理だが、必ず値切るよう。値切るのがへたなお方は、新聞のセールの広告をしつかり見ておく。香港人は衝動買いは決してしない。見比べて吟味する根気を見習っては。

分が悪い。商売は勝敗。
ポインツ(8) お金について。他国ではトラベラーズ・チ
エツクの両替率がいいものだが、香港では現金が一番。
そして、外国為替公認レートがなく、各銀行によつて交
換率に差があり、恒生銀行が日本円に対しの率がよ
い。大金を持ち歩かぬ、人目にお金をさらさぬなどは、
どこの国とて常識。

ポイント(9) 安全性について。犯罪は、人間がいる以上、どこでも起きるもので、香港だけが特別ではない。旅行者としては、スリに気をつけホテルも、人の出入りをしっかりとチェックしてくれるところを選ぶように。

ポイント10 新聞とテレビの活用について。世界の情報
都市香港ならではのニュースを仕入れることもでき、香
港の動きもよくわかる。

まあ以上が、香港的人間への入門といったところだろうか。

香港は、ぬるま湯につかっている日本人に刺激を与えてくれる国。中国返還まであと十年と、決められた時間のなかで決められた場所で、たくましく今日を生きる人々の姿に、国という重みを改めて考えさせてくれる。

★神戸つ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★普段着の海外旅行

森本 隆

（㈱神戸トップナッシュカンパニー・専務取締役）

円高のおかげで、海外旅行のメリットは大きくなり、気軽に海外旅行に行けるようになつて来ました。大阪空港到着ロビーが最もにぎやかになるのが夜8時～9時、一時間の間に5社の航空機が着き、続々と降りて来る時間。皆さん多くのおみやげを持ち、ほつとした顔つき、疲れた顔いろいろですが、出発の時よりは一般的に明るい雰囲気があります。やはり、海外旅行はストレス解消の手段にもいいと思います。全く違う言葉、全く違う文化に遭遇する緊張感と、日常から解放されて、非日常的体験のいい機会でもあります。

さて旅行するとなると、どこがいいか、まずアジアが一番身近かで、普段着のままちょっと香港までという感じです。東南アジアは今まで男性が遊びに行くイメージがありましたが、最近エイズの心配もあつてか、やや減少気味です。かわって女性の旅行者が増えています。

一番新しい韓国、大阪から一時間半でソウルに着き、一日3便出ています。航空券代は五万円前後、国内旅行より安く行けます。まだ一般的にイメージが悪いようですがあ、最近のめざましい発展をしているソウルはオリンピックまで一度行くべきです。ソウルは今年学生デモとか、労働組合のストとかで危ない時期もありましたが、

今は問題が落着して安定しています。ソウル空港に着けば、まず靴磨きのコーナーで（一階到着ロビーの奥では）はいる靴を磨いてもらうと、見違える程きれいになり、料金50円程、市内まで車で約40分、途中漢江の中州にそびえる大韓生命ビル76階を見上げながら市内へ、ロッテホテルの近くが市の中心、明洞の繁華街も近く、近くにサボイ、ロイヤル、キングセジョンのホテルがあります。

明洞は土曜・日曜は大阪の心斎橋よりも混雑し歩きにくい程人が集ってきます。新しいファッショントリードもあり、バーゲンセールのときを狙うとかなり安い。少しはなれてイテウォンのショッピングストリートも海外で有名。近くにアメリカ軍基地があり、輸出向けの卸し商が集ったこの街は、特にJINDOの毛皮ショップをはじめ皮革製品、繊維製品は格安、日本の $\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{6}$ の価格。

韓国は輸入品には関税が高くつき、輸入のジーンズは高いが自国製又はコピー商品は非常に安い。また有名ブ



誰もいないオリンピックスタジアムはひたすら巨大である。（韓国・右端筆者）

ランドのコピー（偽物）はここでは常識、ダンヒル、カルチエの時計が6千円前後、ルイビトンの鞄などもあふれている。香港よりも今物価は安い。食べ物は本場焼肉が最高、一口に焼肉といつてもブルゴギ・グリル焼肉とジンギスカン風焼肉とに分れる。炭火のコンロで焼く焼肉で、ハサミで肉を切りながら焼いてくれるところがいい。ファミリーレストラン風の店よりも、座敷で食べる少しきない店の方がおいしい。ただし、あまり上等の服を着ていくと、汚れるので気をつけて下さい。一人2千円から3千円の予算で十分。一番安いお酒はマッコリ、白い色したドブロク、ビニールびんに入つて、スーパーなどで50円程、今、為替レートは千ウォンが一六〇円程度、一度、見てほしいのは地下鉄。どの駅もすごくきれい、神戸の地下鉄よりきれい。ステンドグラスの天井やら、レリーフなどがあり凝つていて、デートの待ちあわせにプラットホームが良く利用されているとか。韓国文化に触れるのに最も良いのは礼智院、韓国文化センター的役割をしているところで、外国人子女にも門戸を開けて



シンガポールのタイガーバームガーデンにて

料理、結婚の風習とかの講義レッスンが受けられます。市内には、景德宮とかの歴史的名所旧跡もありますが日本の京都奈良の神社とそっくりであまり感動はない。同じ文化ルーツを持つこの国がどうしてこんなに言葉が違うのか不思議な気がします。さて、次に身近かなのが香港、航空券代7~8万、パッケージツアーやでも同じくらいのホテル代が高くなつて3泊4日の一流ホテルでの9万円位。一年中温暖で、韓国とくらべると人間もおつとりしている。大阪から3時間半程、キャセイ航空、日本航空が便利、その他日本アジア航空の台北経由、大韓航空のソウル経由が穴。席がとれない場合やむなく大韓航空でも行けます。香港といえば、中華料理ですが、一人旅のときは西洋料理の方が無難、量が多くて食べ切れないとから。香港で行ってほしい所、買物だけでなく、香港島の裏レバ尔斯湾、映画慕情のロケ地で白浜海岸のような静かな入り江があり、高台に昔のレバ尔斯ベイホテル、今は「リド」というフランス料理店に変つていて。コロニアル風の宮殿跡が残つてムード最高、予約が必要です。コースペイからタクシーで20分程、高速道路を通り、2千円程。その先1km程に、スタンレー・マーケットがあり、ここも輸出専門の格安ショッピングゾーン、近くに刑務所があり、静かな香港の一面があります。東南アジアで一番ハイカラな街はやはりシンガポール、自由貿易港でもあり政治が安定しているので、治安もいいし、商品の質も一番いいように思えます。ホテルも建築ラッシュで次々と新しいホテルが建ち、香港よりもホテル代は安い。街全体、蘭の花がいたる所に見られ東洋の真珠というのむしろシンガポールです。印象に残っているのは、アトランティスというディスコ、ロスオリエンピックのプロデューサーが設計したディスコホール、ハンドクラフトセンターのとなりにある、アジアの熱気がある。

いる。個人で講習を受けるのは難しいですが、政府要人の奥さんなどは良く表敬訪問しています。10人以上のグループで事前に予約しておけば、書道、生花、着物着付、料理、結婚の風習とかの講義レッスンが受けられます。市内には、景德宮とかの歴史的名所旧跡もありますが日本の京都奈良の神社とそっくりであまり感動はない。同じ文化ルーツを持つこの国がどうしてこんなに言葉が違うのか不思議な気がします。さて、次に身近かなのが香港、航空券代7~8万、パッケージツアーやでも同じくらいのホテル代が高くなつて3泊4日の一流ホテルでの9万円位。一年中温暖で、韓国とくらべると人間もおつとりしている。大阪から3時間半程、キャセイ航空、日本航空が便利、その他日本アジア航空の台北経由、大韓航空のソウル経由が穴。席がとれない場合やむなく大韓航空でも行けます。香港といえば、中華料理ですが、一人旅のときは西洋料理の方が無難、量が多くて食べ切れないとから。香港で行ってほしい所、買物だけでなく、香港島の裏レバ尔斯湾、映画慕情のロケ地で白浜海岸のよう

★神戸っ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★北川式海外出張法

北川 勲
△同和通商株式会社取締役社長▽

昭和32年にエレクトロニクス専門の輸出商社を設立して以来、今年の6月で創立満30周年を迎えました。昭和39年に初めてアメリカを回ったのが最初の海外旅行で、それから現在まで商売柄随分とアチコチ世界各国に参りましたが殆んどが商用で、「海外旅行を10倍楽しむ方法」

という点ではどれだけお役に立つか判りませんが、神戸には貿易関連の会社も沢山あり愛読者にも少しはご参考になると思われる私の海外旅行法をご披露することに致しました。

(一) 海外旅行ツアーやスクラップと自家製旅行マップ各新聞の大手旅行社の海外旅行ツアーモデル広告を平素からスクラップしておき、海外出張が決まるとき自分の行先の大体70%位をカバーするツアーモデルを選定して、そこからハミ出でる行先だけの別売航空券を購入します。

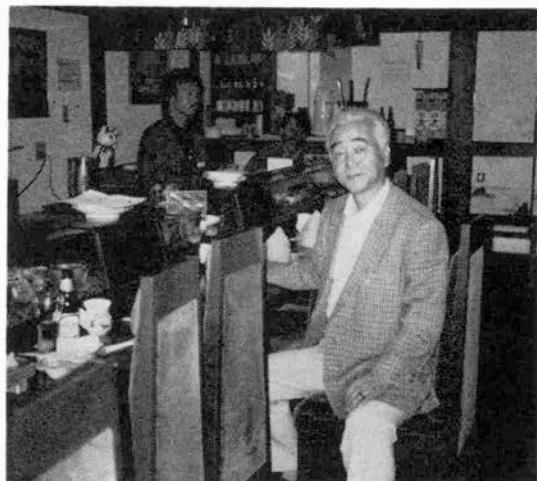
最近はリクルートから出ている「エイビーロード」(定価300円)も併用していますが、手許にある9月号だけでも全200コースがカラーで六六〇頁、大いに役立っていますし、暇なときにページを繰っているだけでも結構楽しめますよ。

(二) アポイントが勝負

過去数回も海外へ出ましたが一回あたり平均して10

日間で、世界一周した時でも半月以内で済ませましたが同業の方々の最低3倍の訪問先をコナします。これも事前のアポイントを完璧にやっておくからで、私の海外出張は出かける前の方が超多忙で社員もネをあげる位です。余談になりますが、予約なしに訪問し何時でも会ってくれるような相手から大した注文が取れた記憶がありません。

(三) 行程表は一枚に



アメリカ・サンディエゴ市 日本料理店のスシ・バーにて筆者

A4版の白紙に全行程（フライト便名・発着時間等）を地図式に書き込み、ホテルの電話・テレックス・留守中連絡先に至るまで一枚に仕上げておくのがコツで、社員の出張の場合でも作らせますが帰社しての第

一声は決まって「アレは便利でした！」

四 大事なモノは机身はなさず

バースポートと現金位は皆さんご承知のことですが、仕事上の必要書類は全部コピーで縮少して上衣の胸ポケットに入れてあります。トランクは初めからアテにしない位の心掛けで旅装を整えることにしています。私の愛用品はミニ手帳（5×3.5センチ位）で上衣の襟裏ポケットに入り機内食をとりながらでもメモることができます。

五 カメラはバカチヨン

若い頃は私も給料の数ヶ月分をはたいて高級カメラを持ち回りましたが、10年前から小型のバカチヨンに替えました。両手はいつも塞がっている上に海外でのシャッターチャンスは非常に限られていますし、カメラの性能も抜群に良くなりましたが、フィルムは例え1週間の旅行でも最低15本（36枚撮り）を用意します。最近は円

高で海外の方が安く買えるなどと物知り顔に言う人はど、現地で折角のシャツターチャンスに大汗かいて売店を探し回っているのを始終見かけます。

六 いつものクリも忘れずに

ご承知のように欧米は医薬分業で、医者は処方箋を書くだけで、薬局も日本のように見当りませんから、飲みつけの薬は必ず持参しましょう。私の場合は鎮痛剤・マイシン・下痢止め・軽い睡眠薬等を出張の都度処方して貰い、上衣・手提鞄・トランクの順に分けて入れておきます。殆どが飲み残りますので、帰国が近づいた行先のホテルや空港の方々にチップ替りに差上げることにしていますが、こちらが恐縮する程よろこばれます。

七 金はタッパリ（使わない）

命の次に大切なのは勿論お金ですが、私の場合は何時・何處で何があつても対処できるように、大体必要額の二・三倍は旅行小切手にして用意して行きます。えてして海外にロマンを求めがちですが現実はもっと厳しく、「金が頼り」ということが段々わかる様になってしましました。それに余裕を持っている程、案外無駄使いはしないものですから。

八 男は度胸、海外では英語

私は若い頃に独立するまでの8年間、スウェーデンの機械輸入商社に勤務しておりましたし、創業してからも30年間、商売柄とはいえ「外人」と「英語」だけは意識したこと�이ありません。語学力が増していく程海外旅行も、より充実し一層素晴らしいものになるというのを私のアドバイスの結びです。昔と違って英語会話の勉強も各種の立派なカセットが明快な教本とセットで発売されていますし、長いフライトの間に見せられる退屈な機内映画の上映時間なども語学力アップの貴重な自習時間です。

それでは皆さん、お元気で楽しい旅行にお出掛け下さい。ツアーの途中は大概消えておりますが、往復の機内最尾席あたりに座っているロマンスグレー・84キロ・



陽光の国、メキシコ・ティファーナにて筆者

★神戸つ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★アルザスを訪ねて

三木 重昭

（インターナショナルサプライ
コーポレーション代表取締役）

数年前、国際青年会議所（本部・マイアミ）の役員として、2年間出向し、加盟国105カ国の半数を国際會議等で歴訪する機会を得ました。その前後、仕事柄各地に出張しておりますが、飛行機、ホテルの手配はほとんど自分でやり、又それが大変楽しみの一つでもあります。現地から現地への移動が多く、時にはレンタカーで、汽車とバスを利用したり、全く不定期旅行ともいえます。今回特に御紹介したい旅行は数ある中で、フランスのアルザス州キンツハイム村とコルマールの町であります。たまたま私の次男（中一）が留学している学校があるので、私も数回訪ねています。ライン川とボーゲュ山脈に狭まれ、西に接する丘陵地帯ローレー地方はフランスとドイツの抗争の的として戦争のたびにドイツ領になったり、フランス領になったりした歴史があり、ドレデの小説（月曜物語）の中の一篇「最後の授業」の舞台としても有名です。ローレーの西にはシャンパン・ニュ平原が広がり、名酒シャンパンの故郷でもあります。フランスのバーゼル空港より車で40分ぐらいの町で、コルマール駅は、昔のフランス映画の世界に飛びこんだ雰囲気です。その構内のバーで飲むワインも最高です。一杯50円位です。ボーシュ山脈沿いにある中世の町コルマール



Colman (フランス政府観光局提供)

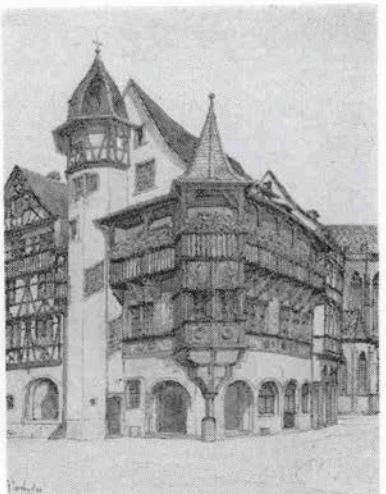
筆者近影

は、四季の花に彩られた美しい運河の町としても有名で、市内のウンテルリンデン美術館には、グリューネバールトの傑作「イーゼンハイムの祭壇画」があります。この街は迷路のような中世そのままの感がします。石だたみの敷かれた道は馬車が走ればびったりです。小さな街ですが、美味しいレストランがたくさんあり、大変食事をするのが楽しくなります。一面ブドウ畑に囲まれたこの町でアルザスワインは最高です。キンツハイム村はコルマールから車で10分位で、息子は自転車で行き来して



アルザスのツクヴィール（フランス政府観光局提供）

おり、休日は川で泳いだり、ブドウの収穫期に手伝つて、ワインを御馳走になつたりして、春は青々とした樹々は太陽を浴びて黄金に輝き、芝生には、リスやモグラが顔を出し、お腹いっぱいのさくらんぼをほうばり、秋には梨が食べ切れないぐらい穫れるすばらしい村です。ブドウ畑の中にいくつかの教会があり、いっせいに鐘が鳴ります。本当に心が洗われる静かな村です。ぜひパリに行かれたら、日帰りでも行けますので訪ねてみて下さい。



COLMAR：“Maison Pfister”



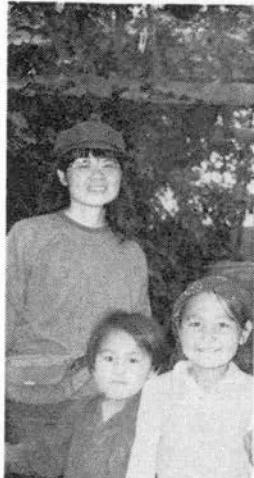
Wissen Bowg（フランス政府観光局提供）

★神戸つ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★現地にどっぷりつかる

石東 直子（フリーエンジニア）



ウイグル族の子供たちと
ウルムチで

中国はさまざまな顔をもつ。いろんな情景をもつていて、行くたびに新しい発見がある。新鮮な体験ができる。つまり、いろんな旅の要求に応えてくれるふところを持っている。一回めの旅はパックのツアーでもいい。

しかし必ず行きたくなる二回目からの旅はパック・ツアーを脱しよう。初めての旅でも、一日か、半日でも、パックを脱すれば、旅を三倍は楽しんだことになると思う。近代化を突っ走る大都市については、日本にも情報がたくさん入ってきており、旅行社もそんな近代化の姿を見せるコースを組んでいるが、あまり面白くない。しかし、そんな大都市でもメインストリートをそれると全く違った顔をもっている。従って、少しの自由時間しかと

れない場合は、まず自由市場に行つてみよう。自由市場はどこで町でもほとんどある。ホテルで尋ねると、近くにある二、三ヵ所を教えてくれるだろう。野菜、魚、肉、鶏などの食料品以外に日用雑貨、衣類、おもちゃや等々なんでも売っている。自由市場はひなびた地方に行くほど面白い。その地方にしかない珍品を見つける。見たこともない野菜、野菜とは想像だにすらできないような野菜、「へえ、これがお豆腐？」と思わずつづいて確かめたくなるようなお豆腐とその売られ方、もちろん場所と季節がグッドタイミングであれば、たわわになつた枝つきのレイジーにもお目にかかる。銀耳（白きくらげ）なんて、ホテルの食事には出でても、その原形は自由市場でなければ、さわって確かめられない（この銀耳は中国では高級食品で漢方の薬食であるが、日本流にお浸しにして三杯酢で食べるととてもおいしい。くらげのようにコリコリした歯ごたえで酒のさかなにもよくあう。中国人の人はこんな食べ方をしないが、私が考案した食べ方である）。自由市場の人々は実に気さくである。中国語が分からなくて、筆談で食べ方は教えてもらえない。鶏は生きたまま元気な鳴き声をあげながら売られている。あの引き締まつた雌鳥がええと指さすと、そのまま足を縛つて買われていく。その場で首をひねつて毛をむしつて、大なべの熱湯にじやほんと入れてゆでてもらえるような場面もある。朝に強い人は朝市がいい。つい

すでに朝市のまわりにいっぱい出ている露店の食堂で、現地の人々に交じって朝食をすますのもいい。自由市場には所によつては仕立て屋まである。朝頼めば夕方でき上がる。私はシルク専門店でシルク地を買つてきて、自由市場でパンツを何本も作つた。シルクのパンツがTシャツなどの値段で作つてもらえる。日本からパートナーをもつて行けば、言葉が通じなくても好みのスタイルのがOKである。

各地の自由市場めぐりのツアーモいいと思っている。

ウルムチ地方に行けば、そこはもう異国である（中国であつて中国でない）。売つてる物も違う。現地の人の顔、姿、言葉も違う。何十種類もの香辛料を見つけると、思わず買つてしまふ。私はトルファンの自由市場で、手織りの羊毛のカーペットを買つた。色、デザインともまさにアラビアじゆうたんである。おじさんとの駆け引き



絵に画いたような普陀宗裏の店

で、初めの言い値の半分近くにしてもらえた。北京や上海の百貨店では見つけることができない代物である。南の地の自由市場に行くと、竹で編んだ様々な品物がある。自由市場めぐりは、現地にどっぷりつかつた気分になれる。中国にいるのに、中国以外の国を旅してゐる気になるときもある。

夕方、二、三時間のフリーな時間が取れた人は、旧い住宅地を散策するのもいい。北京なんかの大都市でも大通りから筋入ると、胡同と呼ばれる横丁の住宅地がある。この解放前に建てられた住宅地は清掃がゆきとどき、静寂で、家々の門構えは一つ一つが趣きのあるデザインで、昔を忍ばせてくれる。上海のは里弄と呼ばれる連続建ての低層住宅地であり、ここは人々の活気と旧い住宅地がびつたり合つた実に楽しい情景である。また主都市に残されている旧租界地の住宅地もいい。中国にありながら世界の各地の住宅地の散策ができる。今これらは住宅地はもちろん中国の人々が住んでいるが、最近建物の修復も徐々にすすみ、町並みとしての景観もよく、絵になる散策道である。住宅地の散策は、中国の人々のありきたりの日常生活に接することができ、中国と日本の生活文化のよく似てゐる点、違つてゐる点など発見でき興味深い。また思ひぬきつかけで、住人たちと心が通い合い、いい友達ができる時もある。彼等は實に人なつっこく気さくである。おおらかである。

中国といえば直ぐ思いうかぶグルメの旅もいい（これについては今さら特筆する必要もなさそうである）。

以上のような気ままな旅の情報を提供するガイドブックはなさそうなので、旅行社をうまく使おう。中国旅行といえばバック旅行しかないと思わないで、自分の見たいもの、行きたい所、旅先でしたいこと、食べたいもの等々をまとめて、中国旅行専門の旅行社に相談すれば、好みのコースを組んでくれて、現地のガイドさんつきでの旅もできる。二度めからの中国の旅は一度行つたことがある国ということで、なじみがあり安心感が持てるが、旅の仕方によつては新しい体験ができるので、違う國への旅に出かけるというトキメキがある。（中国での面白い体験のさまざまは、筆者の「好きやねん中国ー私の中国 喜・怒・楽日記—学芸出版社」をぜひ読んでみてください）。

★神戸っ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★街並の風情と ウォーターフロントの美しさ

板東 慧

（中部大学国際関係学部教授）

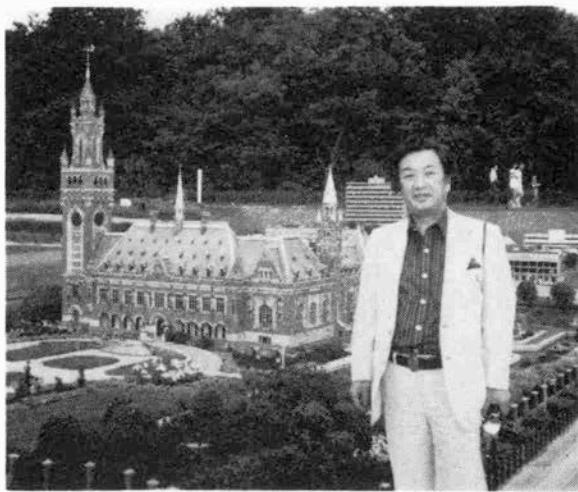
オランダは神戸とも縁が深いが、観光目的よりも、中継地として、アムステルダムに立ち寄ることが多い。そこで案外知られていないオランダを紹介しよう。

アムステルダムは、運河の美しい古くからの港町でわれわれには馴染みやすい。アムスの主な観光ポイントとしては、歴史の重みを感じさせる王宮とその前のダム広場の建築群・東京駅のモデルで豪華な中央駅・レンブラントなどの名画と伊万里やデルフトの陶磁を始め世界有数のコレクションを持つ国立博物館・アンネの家などがある。また、ゴッホの作品と浮世絵を含む彼のコレクションで名高いゴッホ美術館や音楽愛好家には見過ごせないコンセルトヘボウのホールなどが都心部にまとまっている。そして、何よりも、ここは濃い赤煉瓦で五階建てに統一され、その上に飾られた屋根部屋をもつ美しい街並と橋を歩いて楽しみ、運河巡りの船上からも楽しめる街であり、夜はまた、飾り窓周辺も観光コースになる。一見、なれない日本人には夜の街はあぶなげに感じるが、人通りの多いところを普通の注意をして歩けば、ヨーロッパの首都では最も安全といえる。

街頭オルガンや大道芸人、のみの市、骨董品街など、ぶらぶら歩きの楽しい街で、堀出しあるものも多い。

アムス以外でぜひすすめたいのは、列車で四〇分のハ

イグである。ここは、白っぽい優雅な建物も多く政治の中心でアムスと異なった風情がある。また、平和宮という煉瓦の豪壮な国際司法裁判所があり、世界の美術品を



マドーローダム・平和宮のミニチュアの前で筆者

インテリアに使った内部も一見の価値がある。日本人の判事もいて偶然に会えることもある。ハーグには、いたるところに王室や貴族などのコレクションを邸宅で展示した美術館や郵便・人形・衣装など数多くの博物館があり、散策にあきない。

また、この郊外には、二万平方メートルの敷地にオランダの有名な建物や街並を二五分の一に正確にミニチュア化したマドーローダムという世界的な野外博物館がある。さらに、列車で一〇分で、ヨーロッパでもっとも古くて有名な陶器の街デルフトがある。さらに、近くにはヨーロッパ最大で神戸の姉妹港ロッテルダムがライン河口にひろがっており、城で有名なユトレヒトは一時間程度、マーストリヒトは三時間でベルギー国境の近くにあり、共に美しい街である。

風車はどころどころで散見されるが、ロッテルダム近くのキンデルダイクでは、広漠とした農地に十九基が集中して残る壯觀な風景を見ることができる。

アムスを起点にドイツへは、中央駅から国際急行で国

境周辺の風物を楽しみながらケルンまで三時間、ハイデルベルクやライン下りにつながる。また、フランドル地方を列車かバスで四時間、アントワープを経て、ベルギーの古都ブルージュへ行ける。ここはタイムトンネルで中世にたどりついた思いのするヨーロッパで最も優雅な街である。

たべものは、率直にいってオランダ独自のものは特にない。豆と肉・野菜などの煮込み風のエルテンスープに特色がみられる程度である。

むしろ、ここでの名物は、ライスター・フェルと呼ばれるインドネシア料理で、スペイスのきいた焼鳥・春巻・酢豚・焼きそばなどで、ほとんどは中華料理店を兼ねている。それと、夏場に屋台がでて食べさせるハーリング(にしん)で、生臭い感じがするが、大変うまい。

これは、塩にしんの塩抜きしたものを、尻尾をもつて上を向いて食べたり、ホットドッグなどに使うパンにバターや玉ねぎのミジン切りをはさんで食べる。にしんは酢づけもうまい。その他では、ブローチエといわれる何でもはさんでたべるサンドイッチと豊富な種類のチーズ・ハムなどである。もちろん、日本料理店もあり、サモモンの刺身・にしんの塩焼や魚ちりなど、現地の材料を使つた新鮮なものがある。

買物は、木靴や・民族衣装・民俗人形やデルフト・銀細工・ガラス製品など民芸品に事欠かぬが、専門店で日本に輸入されていないものを見つけることが必要である。いうまでもなく、ダイヤモンドはここが本場である。

鞄・ハンドバッグなどの革製品や雑貨で日本であまり知られていないヨーロッパブランドの良いものを見つけるのも楽しい。ダム広場に面したバイエルンゴルフという百貨店は、このような高級品や子供の絵本などもある。アムスのスキボール空港は種類の豊富さでもヨーロッパ最大で、ペレンタイン三〇年などという銘酒も揃う。ここでは秤売りで別包装のチョコレートが土産として最も値打ちものである。



オランダ・イメージの風車が残るキンデルダイクの農地

★神戸っ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★もう一つの英國 スコットランド

苅屋

昭臣

（郵船航空サービス勤務）

スコットランドと聞いて、ウイスキー、ゴルフを思い浮かべた方はマル。ネッシー、タータン、バグパイプを思い浮かべた方は二重マル。『懐かしい音（『螢の光』の原詩）』で知られるR・バーンズ、『アイヴアンホー』のW・スコット、『宝島』のステイブンソンとくればこれはかなりの英國通、いやスコットランド通の方といえるでしょう。

ご存知のように英國は四つの国の連合王国です。その中のブリテン島の北半分近くを占めるのがスコットランドで、同じ島内ながら祖先を異なるイングランドと一八世紀初頭に合併したばかりの国なのです。

お互いに別の国と称する感覺も、英國の血塗られた歴史を辿れば日本人にも納得できるような気がしますが、ここでは詳しい歴史は省略してスコットランドのお話を進めましょう。

ロンドンを中心とするイングランドとくらべて、馴染みの薄いスコットランドですが、これがなかなか興味深い土地なのです。

北部スペイ川流域のウイスキー蒸溜工場で樽出しの真正銘の原酒を試飲するのも左党の方にはこたえられない



ローモンド湖近く
CROFTAMIE INN にて

い楽しみになるでしょう。各地のツーリストインフォメーションで見学できる工場を紹介してもらいます。

北部のくびれた地形の根元にあるのがインバネスの町、言わざと知れたネス湖観光の基点です。

先日の大々的な科学調査の結果、存在が疑問視されて

いるネッシーも、地元では怪獣博物館まで建てられて観光の目玉商品になっています。

とはいって、ネス湖西岸の廃城ウルハート城跡からビト炭で濁った湖面を眺めていると、今にもネッシーが姿を見わしそうな気がしてくるから不思議です。

北部ではもう一ヵ所せひ立ち寄ってみたいのが、ネアンの町から少し内陸部に入ったコーダー村にあるコーダー城です。名前だけではピンとこない方も、数年前某インスタントコーヒーのCMで優雅にコーヒーを飲んでいたルドルフ殿下の居城といえばもうおわかりでしょう。

二五代目ルドルフ・コーダー伯爵が現在も住んでおられます。伯爵家のプライバシーに触れる部分は未公開ですが、実際にC.M撮影した執務室や、その昔使われていた台所等お城内部は自由に見学することができます。

城門を入って左手のレストランで、アフタヌーンティーを味わいながらマクベスの時代の幻想にひたつてみるのも良い思い出となるでしょう。

次はこの国にある四〇〇以上ものゴルフ場の中でも日本でつとに知られた、ゴルフ発祥の地セントアンドリュースのオールドコース。ゴルフ好きの方ならコースに沿って歩いてみるだけでも価値があるでしょう。勿論プロショップがありますので記念のお土産にはこと欠きません。ただ、購入の際には必ず商品をよく確かめて下さい。

最近は東南アジア製の品物も見受けます。(オールドコースをはじめとしてこの国の有名コースは一年も前から予約されており、プレイをするのは非常に難しいので、あらかじめセットされたパック旅行に参加されることをおすすめします)。

そしてスコットランドの首都エジンバラ。

中世の街旧市街と近代の都市新市街とが調和を保つエレガントで美しい街です。新旧市街を見下す岩山の上に中世からの歴史を刻み込んだエジンバラ城がそびえ立つ様は、かつての首都エジンバラの繁栄を彷彿とさせてくれます。



ハイランド地方 ALNESS の STATION HOTEL の前にて

スコットランド最大のイベントは、毎年八月上旬から二週間にわたり催されるエジンバラ国際芸術祭です。音楽、演劇、バレエ等、世界各国からの来演者のプログラムに加えて、絵画展、映画祭が開かれ、ストリートパフォーマーのデモンストレーションが市内いたるところで繰り広げられます。この芸術祭期間中、日曜日を除く毎夜、エジンバラ城門前広場で催される「ミリタリータトゥ」は必ず見ておきたいものです。スコットランドの軍服に身を包んだ軍楽隊の分行進が夜間照明に浮かびあがる一大スペクタクルは、壯観の一言に尽きます。

スコットランドでは、寒さの厳しい冬期を除けば、いつも旅行シーズンなのですが、とりわけ日照時間も長く、気候も安定してくる6月から8月にかけてが最適といえるでしょう。それでも折りたたみ傘や、レインコート、そしてセーターは必ず用意して下さい。スコットランドは樺太より北に位置していることをお忘れなく。

旅の足は鉄道やバスがありますが、レンタカーを利用するのも良いでしょう。日本と同じ右ハンドル左側通行ですし、道路も完全舗装されています。道路が狭いことを除けば自然の中の快適なドライブが楽しめます。

お買物はやはりウール製品をおすすめします。タータンの生地は女性のスカートに最適、カシミヤやシェットランドのセーターも豊富に揃っています。他の都市とくらべると少々高くなりますが、品質や品揃えを考えるとエジンバラ市内プリンセスストリートの専門店やデパートで購入されるのが良いでしょう。

スコットランドには殺伐とした日常に疲れ切った日本人の心をホッとさせてくれるものがあります。それはきっと複雑な歴史と自然との中で生き抜いてきた屈強さに裏打ちされた人々のやしさ、あたたかさの故なのでしょう。

観るだけでなく感じさせてくれる国、英國の中のもう一つの英國スコットランド。自然と、やさしい人々に触れ合う旅に出かけてみてはいかがでしょうか。

★神戸つ子の国際派がガイドする★

10倍たのしむ 海外旅行を

★シユバルツバルド(黒い森) 森 章

(△森真珠株式会社営業輸出販売部部長)

ギュンター・ヴォルフ、47歳。私を案内してくれた友人である。彼にはスリムなドイツ美人の妻と14歳になるクラスの人気者の息子がいる。ギュンターはドイツ南部の美しい都フォルツハイムにアッパー・ミドルの平均的なドイツ人の常として600m²の敷地に一家三人で清潔な生活をエンジョイしている。シユバルツバルド(黒い森)はフォルツハイムから始まり、バーゼルまで250kmの広大な針葉樹林帯がドイツ人の心の拠り所となっている。

「黒い森」は森林浴の源であり、休日にドイツ人はこの森に入り一日中新鮮な空気をいっぱい吸い込み、家族との一時を過ごす。4時のティータイムには森の中のテラスでブルーベリーと生クリームのケーキに散策の疲れを癒す。黄昏と共に森を流れる冷い風が足元を通り

抜ける。“黒い森”は人の心をメルヘンの世界に導く不思議な魅力を持つている。フォルツハイムは、この“黒い森の砦”という語源の通り森の入口に位置している。

2000年の歴史のあるゴールドシユタット(黄金の都)フォルツハイムは金細工、時計、貴金属の都であり、一



“黒い森”的眺望



バーデンバーデンの花の公園にて

地方都市として独自の文化を培ってきた。このフォルツハイムへはフランクフルトから空路45分、バーデンヴァルテンビュルグ州都のシユツトガルトからアウトバーンで1時間、バスと列車で1時間半。交通の要所カールスルーエとシユツトガルトの中間に位置する人口12万の絵葉書より美しい公園の都である。ドイツの歴史は重苦しい。ドイツの音楽、絵画、文学、哲学が示すように總てが正統派であり、重戰車の響きがある。そのドイツ国内では地方都市が固有の文化と伝統を大切に守り、その独自性がドイツ人気質として現代まで継承されている。フ

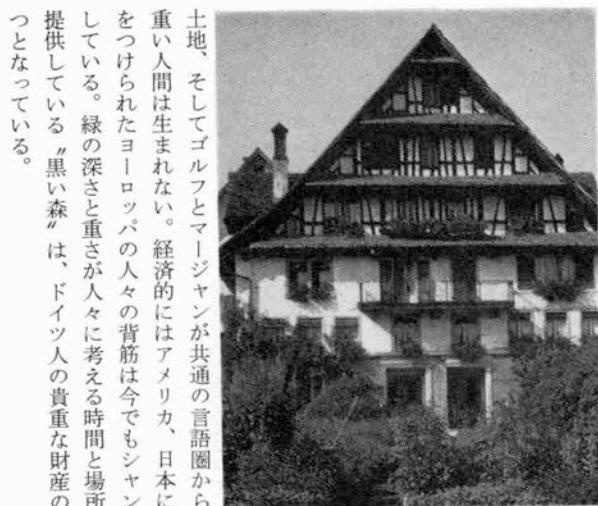
オルツハイムの文化はこの“黒い森”から生まれた。ドイツの南部でも冬は厳しい。10月には初雪があり、真冬には零下20℃にも達する。春は5月に始まり、それが夏になる。寒暖の差の激しさ、そして日照時間の長さが都全体を花園にする。一区画600畝の住宅の窓にはベ、コニア、ゼラニウム、庭にはバラ、チューリップ、野原にはタンポポのジュークン、梨・リンゴの真っ白な花、そして中央を流れるナゴールド川には鱗の群、おしどりと鴨がのんびり泳いでいる。教会から流れるグロッケン（鐘の音）継てが絵になる。フォルツハイムから始まる“黒い森”は奥行きが深い。詩人ヘルマン・ヘッセの深い森に包まれた谷あいの村カルヴ・カールスルーエの公園、バーデン・バーデンの広大な花の公園、シュツ



中央を流れるナゴールド川

トガルトの公園、それぞれの公園にはボート、モノレールやミニ鉄道で園内を一周出来る設備が一つはある。仕事を離れた人々の憩いの場、ヴィルドバッド、バッドリーベンツェヘル、フロイエンデンシュタット等リタイヤーした老夫婦が散策している姿は森の中に溶け込んでいる。森が人間を飲み込み、自然に戻る事を示唆している。そして森の中に点在する小さな村々にはレストラン付のホテルがある。州によつて夏休みをすらしている合説的なドイツでは宿のはいらない。道沿にフライ（空室）のサインがやたらと目に付く。

ドイツのホテルはどのような田舎へ行つても清潔きれいである。大きな枕とゆつたりした羽根蒲団は安眠を約束してくれる。森には自然を素材にした料理がある。白いアスパラガスは二日酛に良い。炭焼のマスにレモン



緑や花に囲まれた“黒い森”的家

掛けた塩味の野趣料理。日本人好みのシュバルツバルダー・シンケン（生ハム）タマネギの風味の美味しいツビーベル・ズツペ（オニオングラタンスープ）、ヴィルド（鹿肉のステーキ）、スペツツレ（キシメン風ヌードル）、その他森の料理は沢山ある。デザートがおいしい。生クリームが多い事、木の実、果実等、あまりつぱい味はブラックコーヒーに合う。テーブルのセッティングは雰囲気がある。木立の下、ギャンドルを明かりに暖かい料理とワインは夜の早い森の冷い風を心地良くする。雰囲気を大切にする食事の習慣は、家庭でも重んじられる。母親から娘へ、娘から子へと家具・食器と共に家庭の味も引き継れる。その家ならではの味である。ドイツではインスタント食品は普及しない。独自性をガソとして守り通すドイツ人の気質は、過去の歴史の中でも変わらない。それがドイツ人の特性として通じている。今後、ますます国際社会で生きて行かなければならぬ我々日本人にはどのような対応が求められるのであろうか。株と株となつてゐる。

海外旅行へのワンポイント・アドバイス

あなたの旅行がさらに楽しくなります――

△申し込み▽

まず、旅行代理店の窓口へ。各社とも得意とする分野を持っているので、予算や日程などを細かく相談する。

△渡航手続き▽

海外旅行に必要なパスポート（旅券）、ビザ（査証）などの手続きは旅行代理店にまかせる。その場合、戸籍抄本一通、住民票一通、パスポート用写真（5×5センチ）二枚（国によつては三枚）、印かんおよび官製ハガキが必要。

△出発の前▽

通常、出発の二週間前から詳細なスケジュール表や宿泊ホテルリストなどが旅行代理店から届く。

旅券や入国査証など必要書類、持物、服装など

△再チェックする。

△外貨購入▽

旅行中に必要な外貨の購入は、外国為替取り扱い銀行で出来る。外貨は現金は現金で持ち歩くよりも、たとえ紛失しても便利なトラベラーズチェックと現金に分けて所持した方が安全である。

△その他▽

機内に預ける荷物（スーツケース）には貴重品、外国製品、こわれものなどは入れないようになります。また、海外での万一の事故や病気、盗難などにそなえて、海外旅行保険に加入するのもいい。海外旅行保険の掛け金や保険内容などについては、各旅行代理店、各保険会社まで。

海外支店網、日本一の旅行社

J. T. B. 日本交通公社

神戸長田支店

支店長 杵島 浩一郎

神戸市長田区大橋町 6-2-3

TEL (078) 611-2666~8

神戸で1番、TOP NOTCH

(有) 神戸トップナッチ
カンパニー

代表者 新井 和宏

神戸市中央区琴緒町 5-3-5

グリーンシャボービル

TEL (078) 242-2695

中国旅行を
ニーズに応じてアレンジ

(株) 友誼旅行社

代表取締役 陳東華

神戸市中央区下山手通 3-10-9

TEL (078) 392-4781

新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

好評発売中 ¥580(年間購読
¥8,000) 新年号

★新春ビッグインタビュー

井上 靖



「シルクロードと私」

関西百撰会ギャラリー
老舗がお届けする買物情報

上方味覚紀行 「阿み彦」
楠本 憲吉

程さんのうんちく料理塾
「中国風寄せ鍋」 程 一彦

特集1:これぞ関西ブランド

関西のエスプリ100／関西ならではという優れた「ブランド」を探る。関西各界の方々による“関西ブランド”100

特集2:冷泉家の御物

特集3:古典の世界若手群像

特集4:’88初詣ガイド

〈好評連載企画〉創造の世界「川崎重工業」・名医に聞く「歯の疾患Ⅱ」・孟さんの新風俗記・大阪の曲がり角・玄妙禪談・男の後ろ姿、わが親父論(株)カネイチ中本城治社長・カルチャーカレンダー・住宅情報・日本の宝との出会い・当世川柳ばなし・BOOK REVIEW・タウンジャーナル・パートナー & シンポジウム・オラクル1月の運勢・ライブサロン・ZOOM UP・友人交歓・住まいはアトリエ・パーソナリティー87・グループ登場「ダッセグループ」・ビジネス最前線・カラートピックス「世界歴史都市博」